

相馬
ゆうこの

南千住レポート



まちづくり・
くらしの情報を
届けます

区議団控え室 荒川区荒川2-2-3区役所内5階 ☎3802-4627

FAX:3806-9246/メール:arajcp@tcn-catv.ne.jp

相馬ゆうこ事務所 荒川区南千住5-1-6・2階

☎・FAX:3807-4192

jcp-arakawakugidan.jp/
ツイッター @m1010_yuko
araken-nan.jugem.jp

熱中症患者

6月は都内で過去最多、区内40人超

中・重症は
75歳以上が2/3

厳しい暑さが続き、都内でも熱中症で運ばれる方が増加、1～6月の都内の熱中症患者は2,883人（7/4時点）。6月だけで1,828人、過去10年で最多になりました。荒川区内でも6月以降60人が搬送されています。



熱中症患者数(7/4時点)

	都内	荒川区
1月	5	0
2月	4	0
3月	15	0
4月	67	1
5月	166	1
6月	1,828	43
7月	798	17
計	2,883	62

今年の区内の熱中症患者を年代・症状別でみると、75歳以上が35人で5割以上。そのうち「中等症」22人、「重症・重篤」4人と心配です。

屋内でも 年齢が上がると温度に対する感覚が弱くなり、汗が出にくい、のどの渇きを感じにく

区内の年代・症状別 (7/4時点)

	軽症	中等症	重症	重篤	計
0～5	0	0	0	0	0
6～14	1	0	0	0	1
15～19	1	0	0	0	1
20代	5	0	0	0	5
30代	1	1	0	0	2
40代	3	0	0	0	3
50代	1	0	0	2	3
60～64	1	0	0	0	1
65～69	2	2	0	0	4
70～74	2	5	0	0	7
75歳以上	9	22	3	1	35
計	26	30	3	3	62

くいなど、室内でも熱中症の危険が高まります。電気代も大変ですが、なるべく冷房も活用してください。お近くのふれあい館等の利用もどうでしょうか。



子どもの命 まもる対策も

また、50代で2人が「重篤」、30代でも「中等症」の方もおり、年代問わず注意も必要です。区内では0～5歳の搬送はないものの、コンクリートの照り返しなどで小さな子どもの体感温度は大人以上です。都内では6～19歳の小中学生等の搬送が6月だけで172人、7月も4日までに58人です。

子どものマスクは一律に求めないことなど地域でも理解をひろげ、深刻な暑さから子どもを守りたい。



天王公園の水遊びは9日から 前倒しで開始

公園の水遊びの実施を前倒して欲しいとみなさんから声が寄せられ、一週間早まります。天王公園・東日暮里公園は、7月16日(土)→9日(土)に前倒し。暑さ対策もしてお出かけ下さい。



南千住地域～引き続き約550戸超のマンション建設

急激に少子化と人口減少が問われる日本の社会ですが、都内、荒川区区内でのマンション建設が続いています。南千住1・2・5・7丁目で550戸以上のマンション建設進行中です。地震に強い建物になりますが、無計画に住宅開発が続き、一方で幼稚園の廃止計画。賃金上がる経済や公共住宅建設、少子化対策が必要。



建設が続いています。南千住1・2・5・7丁目で550戸以上のマンション建設進行中です。地震に強い建物になりますが、無計画に住宅開発が続き、一方で幼稚園の廃止計画。賃金上がる経済や公共住宅建設、少子化対策が必要。

国から地方までちぐはぐな政治が続いています。誰のための開発、まちづくりなのでしょう。考えたい。



区立幼稚園・こども園(短・中)の廃止案へのご意見



先週のレポートの区立幼稚園・こども園の区の計画について、複数の方からご意見・メール頂いています。「幼稚園の統合などいずれかの時期で、検討事案かな?と思っています。保育園のニーズが高い、少子化で幼稚園児減少としても、区が保護者の要望も実行せず、いきなり閉園とはびっくり。汐入こども園は交流サロンから利用していますが、今年0歳の定員が3名で入れず。0歳の空きが続いたとはいえ、まさか3名とは。育休延長で来年待ちの方も多そうです。こども園の評判は高く、交流サロン・一時保育利用で先生方にメンタル的にも支えて頂き、他のお母さん方との出会いもありがたく、南千住に越してよかったと思っています。こども園は、私立と違って英語や体操など特殊な教育メニューはありませんが、体験学習(遠足や植物の栽培など)に力を入れて、先生たちも熱心です。幼稚園も預かり保育など実施すれば園児も増えます。区立園として他の区に自慢できるモデル園を作ってはどうでしょうか?幼稚園ニーズが減ってもイコール閉園っておかしい。保育園も兼ね、地域の子育てプラットフォームとして重要な役割を担っていますよ!まずは幼稚園ニーズが課題なら利用者の声を具現化して、結果が出ないときに次の話し合いでしょう。少子化問題と言う割に少子化促進しかしない、がっかりです。大問題は、保護者はじめ地域の人たちが知らず、知られないように告示して実行しようとしているとしか思えません!...ご意見ありがとうございます。みなさんの声を区に届けます。改めて裏面に区の「素案」を掲載しました。子どもを真ん中に、地域の主役は住民です。

<法律・生活相談>

8月の定例法律相談日は お休みです

ご要望やご相談などは随時ご連絡ください。事務所での定例法律相談は、お休みですが、平日の午後に法律事務所(北千住)でも可能ですのでご連絡下さい。

お名前、電話番号等を下記の留守番電話に録音して下さい。

相馬 ゆうこ事務所 南千住5-1-6-2階 ☎3807-4192

区立幼稚園・こども園(短・中時間)の廃止案～パブコメが開始

6月29日の区議会委員会で説明がないまま、パブリックコメントが7月1日～14日(木)の期間で実施に。区の「素案」に対して、区ホームページ、FAX、メール、郵送、窓口で意見を提出できます。以下、区の「素案」をほぼ全文掲載します。子育て世代だけでなく地域のみなさんからご意見をよろしく願います。

窓口：荒川区役所3階3番窓口
郵送：〒116-8501 荒川区荒川二丁目2番3号
教育委員会事務局 学務課 学事第一係
FAX:03-3802-3194
メール:kyoiku-gakumu@city.arakawa.tokyo.jp

荒川区立幼稚園の方向性について(素案)

令和4年6月 荒川区教育委員会事務局

はじめに (略)

(下線、イラスト、表の一部は相馬による)

1. 荒川区の区立幼稚園等の現状と課題

(略) これまでの区立幼稚園等の経緯と今後の方向性について検討する際の、前提となる現状と課題は以下のとおりである。



(1) 区立幼稚園等の経緯 (略)

(2) 園児数の状況

区立幼稚園は令和4年5月現在、各園とも3歳児・4歳児・5歳児各35名の105名の定員で園児を受け入れている(南千住第二幼稚園の3歳児は30名、※園定員100名)。入園率(定員に対する園児数の割合)は3～5歳児全体で約36%となっており、これは入園率が約68%であった平成25年度以降、減少傾向にある。減少の原因としては、共働きの子育て世帯の増加など社会環境の変化等に伴う保育需要の高まりや、幼児教育・保育の無償化により、私立幼稚園と比較した際の保育料等の費用面における優位性が区立幼稚園になくなったこと等が考えられる。なお、汐入こども園についても、幼稚園部分の短・中時間保育の園児数が減少傾向にある。

(3) 特別な支援を必要とする幼児への対応について

都内には特別支援学校の幼児部が設置されておらず、区立幼稚園が特別な支援を必要とする幼児を受け入れる場合には、幼児教育補助員を配置し、集団教育を受けられる体制を整えている。前述のとおり、区立幼稚園全体の園児数が減少している一方で、特別な支援を必要とする園児数は増加傾向にある。

(4) 保護者の方々からのご意見について

令和4年現在、区立幼稚園(日暮里幼稚園を除く)の1日の教育時間については、幼児の幼稚園における教育の時間の

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
対象園児数	30	36	50	43	99	88	102	96	101	99
補助員配置数	23	24	31	27	52	52	58	56	60	68

※各年5月1日時点の人数

長さの妥当性や家庭等における生活の重要性等を総合的に考慮して9時～14時までとしている。しかしながら、現状の教育時間では、共働き世帯にとって就園施設の選択肢として区立幼稚園を選びにくい状況になっており、入園申込時に行う保護者対象アンケート調査の中では、預かり教育の各園展開により子どもの預かり時間をもっと長くしてほしいという意見が毎年挙げられている。また、区立幼稚園の昼食はお弁当持参となっており、食を通じた親子のコミュニケーション機会づくりや、食に対する知識・意欲の向上等を図っているが、毎日のお弁当作成を負担と感じている保護者もいる。

2. 区立幼稚園に求められる機能

- (1) 特別な支援を必要とする園児の(略)受入れ先を確保しておく必要がある。
- (2) 就学前教育と小学校教育の(略)一層の連携強化。
- (3) (略)預かり教育実施園の拡大や給食提供等、保護者のニーズを踏まえたサービス面の充実
- (4) 区立・私立の幼稚園が相俟って荒川区の幼児教育の一層の質の向上と充実を図る

※「汐入こども園(短・中時間保育)は、廃止」に対して委員会で「長時間」(保育園部分)の継続を質問したところ、区は、継続について明言しませんでした。今後とも、保育園部分の運営含め区の動向をお知らせします。

3. 区立幼稚園の方向性

(1) 質の高い幼児教育の実現

特別な支援を必要とする幼児の就学前教育の場として、引き続き幼児教育補助員を適切に配置するとともに（略）他の未就学施設に対してのモデル的役割を果たす。また、就学前教育から小学校教育へスムーズに移行できるよう、小学校との交流教育や研究会等を通じて実践例を蓄積していく。

(2) 地域バランスに配慮した再配置

（略）私立幼稚園の配置状況を考慮しつつ、瑞光、峡田、尾久、日暮里の小学校学区の地区と合わせ、地区ごとに区立幼稚園を1園とし、計4園（南千住第二、花の木、尾久第二、日暮里）を配置する。（再配置後の荒川区内幼稚園配置図については下記参照）。また、汐入こども園（短・中時間保育）は、この再配置と合わせ、廃止することとする。

(3) 預かり教育の拡充

再配置と同時に、日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全4園で実施する。預かり教育の実施に向け人員を充実させるため、再配置に合わせ職員の異動を実施する。

(4) 給食提供等の検討

給食提供等の実施については、保護者ニーズや私立幼稚園に与える影響等に配慮しつつ、実施に向けて検討する。

(5) 私立幼稚園との連携

区立、私立が連携して、（略）情報を共有しやすい環境を整え、荒川区の幼児教育全体の一層の質の向上を図る。

	現在	区の案
瑞光地区	南千住第二	実施
	南千住第三	廃止
	汐入こども園 (短・中時間)	廃止
峡田地区	町屋	廃止
	花の木	実施
	(私・黒川 ・ワタナベ ・友の季ひまわり)	—
尾久地区	尾久	廃止
	尾久第二 (私・北豊島)	実施 —
日暮里地区	日暮里	実施
	東日暮里	廃止
	(私・真成 ・道灌山)	—

(区の資料から作成)

4. 実施時期等について

(1) 再配置実施のスケジュールについて

再配置に伴い、閉園となる4園（南千住第三、町屋、尾久、東日暮里）については、令和6年度3歳新入園児の受入れを最終とし、令和8年度末をもって閉園とする。また、汐入こども園（短・中時間保育）についても同様のスケジュールで廃止する。なお、令和4年度に行う園児募集時（令和5年度入園児）から募集要項等に再配置に関する事項を明記し、周知を行う。

(2) 学級編制基準の取り扱いについて

園児数の減少に伴う区立幼稚園の小規模化の現状を見直し、効果的な教育活動及び適正な幼稚園運営を行うために、学級編制基準(※)は、引き続き、適用する。

(3) 預かり教育の全園実施について

4園体制となる令和9年度から、現在日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全園で実施する。

※学級編制を行う基準

- (1) 3歳児の新入園児については、最小園児数は8人とし、7人以下の場合は学級編制を行わず、募集を中止する。
- (2) 学級編制を2年続けて行わなかった場合は、廃園を検討する。

ご意見・ご質問頂きました ○「JR南千住駅で電車の時間を調べようとしたら、時刻表の掲示が見当たりません。駅員さんに聞くと、ホームにありますと。イヤイヤ改札前、駅構内は、と返すと、ホームページで、と。スマホは必需品とはいえ、公共交通事業者としてこれで良いの？スマホを持たない方、操作に不慣れな方など、行き当たりばったりで電車に乗れと言うこと？私たちが気づきにくいところで、効率化されるのですね」…紙の時刻表廃止や無人のホーム、駅員のいない早朝の駅、弱者の安全などJRに改善をもとめたい。○街のあちこちで「政治家が誰のためにいるのかわからない」と不信の声が多いです。期待を失い、あきらめが覆って、さらに暗い社会にしたいくない。

